





### ——漫画を描く葛藤

大学の2年後輩に堀越耕平君(36期イラストレーションコース卒)っていう学生がいて、堀越君はもう今凄い人気なんだけど(現在週刊少年ジャンプ(集英社)にて『僕のヒーローアカデミア』連載中)、彼がある日、友人と一緒に僕に「漫画見てください」って来てから仲良くなつて。その最初に堀越君がノートに描いた漫画を見た時に「この人は才能がある!」と衝撃を受けたのを鮮烈に覚えています。でも彼はまだ描き始めたばかりで、僕は小さい頃から漫画を描いてきた自負があった。ジャンプの新人賞に手塚賞とかあるんですけど、それも在学中に僕が先に獲つて、でもその僕の積み重ねを彼が一気に追いついて、抜かして行つた。すごい焦燥感ですよね。卒業して2年位の頃かな、1ヶ月位寝れなくて、自分の漫画と堀越君の漫



『マジスター～見崎先生の病院訪問授業～』の原画と掲載ページを見ながら、制作の工程を垣間見る。

画を鳥山先生の所に持つて行って「なんで堀越君のは(ジャンプに)載つて僕のは載らないのか?」って聞いたんです。

その時鳥山先生から「堀越君はジャンプに載つて、君のは載つてない、それだけのことじゃない。なんでそんなに落ち込む必要があるの?」ってそんな神みたいな事を言うんです。今ならその意味が分かりますけど、当時は「それが全てじゃないか!」って。でもそうですよね。あのぐらいの人から見たらね(笑)

### ——不定期連載中の『マジスター』について

『学校へ――』の後、軽い燃え尽き症候群みたいになって。何を描けばいいんだろうと思って時に山本純士先生の『15メートルの通学路』を読んで、こういう制度(病院訪問教育)を題材としてやってみたいと山本先生に会いに行きました。それでネーム段階まで作って出版社を周つて、12社くらい周ったかな。他にも新聞社とか色んな所に送りました。でも全然引っかからない。2年半くらい頑張つて、その中でスペリオールから「うちでやりませんか?」と。制作は山本先生から文章の粗筋をもらつて、それを2人で相談しながら漫画にしていく感じです。全5回、単行本1冊分の予定です。

### ——今後描いていきたいこと

まだ企画も通つてないんですけど、不登校や引きこもりの人達をテーマにした漫画を描きたいと思っています。『学校へ――』は人の為に描いたつい

もりは全然なくて、それが世に出た時にこんなに反応があつた。講演会で実際に関係者の人達に会うようになって、自分は本当に恵まれたケースだったと思い知つたんです。もっと大変な人も沢山いる。不登校と一緒にされる中には本来は別問題の引きこもりや発達障害や様々なケースがあって、そういう人達の背中を少しでも軽くできたらと。前は自分の事を描いたから、今度はその人たちの事を描きたい。

他にも描きたいテーマはあるのですが、今は『マジスター』を頑張りつつ、色々なアイディアを練つてゐる段階です。



たなごのしういち(本名棚橋正知)/1982年愛知県生まれ  
13歳の時に漫画家鳥山明に出会い、漫画家を目指す。  
大学在学中に集英社少年ジャンプ第70回手塚賞、第68回赤塚賞を受賞、2008年講談社月刊少年マガジンにてデビュー。  
2014年に不登校だった自身の小・中学校時代を描いた『学校へ行けない僕と9人の先生』(双葉社)が注目を集め、不登校をテーマとした講演を各所で行つてゐる。  
現在、漫画家、イラストレーターとして活躍する傍ら、河合塾美術研究所子ども教室講師、日本デザイナー学院名古屋校マンガコース講師も務める。  
ビッグコミックスペリオール(小学館)にて『マジスター～見崎先生の病院訪問授業～』が不定期連載中。最新話は今冬掲載予定。

棚園正一さんホームページ <https://ameblo.jp/shelf-studio/>

ビッグコミックスペリオール『マジスター』紹介ページ(1話目が無料公開中)  
<https://bigcomicbros.net/comic/magister/>



《呂色》 F10号

《韓紅》 51.4×18.2cm  
《瑠璃》 51.4×18.2cm

### 力強い色彩から吹き込まれる命

## 福本 百恵さん 33期卒 美術学部絵画科日本画専攻



### ——ご卒業後も精力的に発表なさっていますね。

年に個展とグループ展を多数させて頂いてます。今年は新日春展、前田青邨記念大賞展、臥龍桜日本画大賞展で賞をいただきました。ありがとうございます。

——学生時代の作品を振り返って、画風や気持ちの中での変化などありましたか。

以前は目に見えた物しか表現出来ず、心で見た作品は描けてなかったと思います。院生では絵と向き合う時間が濃くなり、技法、モチーフなど新しい事にチャレンジする事が楽しく主に大きい作品制作をしていました。今でも自分の思いを表現出来ているのか分かりませんが、絵を描くことは変わらず好きです。

——花鳥(植物や鳥)を主に描いている理由、花鳥画を通して作品に描こうとなさっているのは何でしょうか。

のびのびとした自由な姿、目を楽しませる鮮やかな姿、素朴な色合いのなかに凛とした気品ある姿、鳥と花は沢山の顔を持ち、描くたびに新しい表情に気付かされます。

花鳥を見た時の自身の感情を表現し、私なりの花鳥画を制作していきたいと思います。

——古来から花鳥画は描かれてきたわけですが、そういった流れを含めて日本画という表現方法について思いなどありますか。

私は日本画材の発色を最大限に生かす事を意識し描いています。明治以前の日本画は色で溢れていきました。お寺や掛け軸、色鮮やかなものが多く、色彩豊かだったと思います。しかし劣化などで現在我々が目にする画面はやや発色が鈍くなり、日本画は落ち着いたものだというイメージが付いているような気がします。

受け継がれた絵具から、新しく発明された色など、多種揃える事が出来る今、色幅が沢山ある鳥、花など昔からモチーフとされる題材を描く事で、伝統を守りつつ現代の花鳥画を描いていきます。

先生や友人達と話したなんでもない会話を、よく思い出します。卒業してから一人制作をし心が弱つくると、大学で過ごしてきた時間に助けられている事に気がつきました。

そんな支えを大切に一枚一枚気持ちを込めた作品を、20年、30年後も描き続けていきたいです。

ふくもともえ／1984年、香川県に生まれる  
2006 名古屋芸術大学美術学部絵画科日本画コース卒業  
2008 同大学院美術研究科美術専攻日本画制作研究修了

主な展覧会など  
2005 第37回日展 入選(同'06、'07、'13、'14)  
2006 第41回日春展 入選(同'08、'10、'11、'13、'14)  
2007 第3回 奈良県万葉日本画大賞展 入選(奈良県立万葉文化館 同'09)  
第53回 全閩西美術展 入選(大阪市立美術館)  
2010 京展 入選(京都市美術館 同'11-'13)  
2011 フランス・オーヴィル市 フレスコ壁画創作プロジェクト参加(同'12-'14、'16)  
2012 第58回 全閩西美術展第3席受賞(大阪市立美術館)  
2013 第3回名美アートアリウム 青美展(同'18)  
Next stage展(名古屋松坂屋美術画廊 同'14)  
個展(名古屋丸栄ギャラリーエスパス 大丸京都店アートサロンエスパス 同'15)  
2014 第1回 改組 日展 入選(同'15、'17)  
2015 黎明の会(同'17、'18)  
個展(松坂屋本店 '17)  
2016 日本画展(丸善日本橋店)  
2017 ART FAIR TOKYO 個展  
第一回 新日春展 入選(2018年奨励賞)  
個展(高松三越)  
2018 第8回前田青邨記念大賞展 優秀賞  
第27回臥龍桜日本画大賞展 奨励賞  
現在、新日春会会友

2017年より、名古屋芸術大学芸術学部芸術学科美術領域日本画コース非常勤講師

梅田版画工房～  
最初に感じた憧れと感動を胸に。

## 梅田明雄さん 規容子さん

美術学部絵画科洋画専攻 9期卒



明雄さん、規容子さん。ツーショット。

—版画工房を開設して、リトグラフを取り扱っているということですが、少し技術的なことを伺つても良いでしょうか？また仕事はどんな内容なんでしょう。

リトグラフは水と油の反発を利用した版画技法のひとつです。技術的な難易度が高く、設備を充実させるのも容易ではありません。アーティストがリトグラフを制作しようとしても、気軽に取りかかるものではありません。そんな時に我々版画工房がアーティストたちの手助けをし、時には助言を行い共同作業で作品を仕上げていきます。版画工房の役割は、アーティストが求めている技術・設備を提供することです。

制作の依頼はいろいろな形がありますが、一番多いのは画商さんや出版社を通してくることが多いです。もちろんアーティスト自身から直接制作依頼をされることもあるが、我々の方からリトグラフに向いているアーティストに制作をお声がけすることもあります。

いずれにしても、アーティストと版画工房が共同作業で最も良い方法を話し合いながら作品を完成させていきます。

—なぜ版画なのか？そして版画工房開設へと繋がっていったのでしょうか？

絵を志そうと思い始めた頃は、ひたすら絵を書くことが好きなだけで版画工房の存在すら知りませんでした。美術の勉強をしていくうちに、ロートレック、シャガール、ピカソなどのリトグラフ作品から興味を持つようになり、将来は絶対に版画、特にリトグラフをやろうと思うようになりました。そんな想いを抱きつつ名古屋芸大に入学したのですが、当時の名芸には版画コースはありませんでした。そこで仲間を募って共同で中古のプレス



上：若いアーティストたちにリトグラフを指導中



アトリエの様子

機を購入し、空き家を借り技法書を片手に何度も何度も失敗をし、試行錯誤を繰り返しながらリトグラフの作品らしきものを制作したりしていました。当時、リトグラフの集中講義が名芸であったのですが、先生の宿舎にまで夜押しかけ、質問を浴びせかけたこともあります。

大学卒業時になっても、さらにリトグラフをやり続けたくて色々と模索していたところ、愛知県碧南市に石版石（天然の石灰岩）を使ったリトグラフをやっていらっしゃる版画家の鶴本達郎さん（元名古屋芸大版画コース非常勤講師）に、一か八かの思いで「リトグラフを教えてください！」とお願いに行きました。そうしましたら幸運にも教えていただけるうえに、プレス機や石版石まで使わせてもらえることになりました。こうして卒業とともに碧南市でアルバイトをしながら、自身の作品制作を始めました。

—刷り師としての苦労や、やりがいのあった依頼、エピソードなどお話しください。



刷り作業中の梅田氏。

一年半くらい経った頃、長野で大きなリトグラフの版画工房が出来て、若いスタッフを探していると教えていただきました。身軽だった私は二つ返事で、長野に行くことを決めました。

ここからリトグラフの刷り師としてのキャリアがスタートします。最初は、自分の制作と版画工房の仕事と二足の草鞋を履くつもりでいました。しかし、版画工房での仕事は想像していた以上に厳しく、一流のアーティストの作品には本当に集中して取り組まなければならず、刷りの仕事に集中するようになりました。

おかげで当時第一線で活躍していたアーティストの制作にかかりわり、たくさんの刺激と素晴らしい経験を積むことができました。12年間、多くの事を勉強させてもらい、独立して梅田版画工房をスタートさせました。

—刷り師としての苦労や、やりがいのあった依頼、エピソードなどお話しください。

やはり一番苦労するのは、アーティストの考えを理解することです。アーティストとは意思の疎通を充分とるように努めます。調子よく制作が進むこともありますが、そんな時ばかりではありません。お互いの理解と疎通が出来ていないと、思い通りの色が出せなかったり、製版が思うようにいかなかったりと、時に険悪な雰囲気になることもあります。

思い出に残る仕事は数多くありますが、中でも大好きだったカトランさん（Bernard Cathelin、1919-2004）の仕事ができたことです。彼のリトグラフ作品の中でも代表作になるものができたのではないでしょうか。校正刷りを見せにフランスにある彼のご自宅にまでうかがったことは、今でも素晴らしい思い出として記憶に残っています。彼のリトグラフ作品の画集の中にローラーをもつ

て制作している私の写真が載っているのを見た時には感激しました。

最近ではピアニストとして有名なフジコ・ヘミングさんから仕事の依頼があり、ちょっと驚きました。なぜピアニストの方からと。恥ずかしながら勉強不足な私は、フジコ・ヘミングさんがピアニストだけでなく作家として素晴らしい絵を描かれる方だということを知りませんでした。今までパリで版画を制作されていたのですが、日本では私の工房へ初めて仕事を依頼していただいたことがあります。後で苦笑いました。

—版画工房／版画作品を生み出すという仕事に対して、どんな思いがありますか。

私のやっている仕事は、言ってみれば裏方の仕事です。しかしながら、版画工房で仕事をしていると、多くのアーティストに出会い多くの刺激をもらいます。それまでは想像できなかつた作品と巡り会え、たくさんの感動を経験できます。

また、アーティスト側からも、工房で制作したことによって今までより表現の幅が広がり、想像以上の作品に仕上がったという声をいたたくこともあります。苦労した作品にとても良い仕事が出来たと感謝される時に、満足感、達成感があります。

こうした思いを胸に、今後も自分のスタンスは変えず、より多くのリトグラフの作品を世の中に送り出したいと思っています。

10代の頃に出会った憧れ・感動をこの歳になってしまって追いかけ続けています。楽ではないことはいっぱいありましたが、やりたいことをやり続けられた幸せを感じています。体力の続く限り追っかけていこうと思ってます。

あと、卒業してリトグラフ制作する場所がなくて困っているという方、リトグラフ制作したいとお考えの方、私にドーンと相談してください！

—制作のご相談は以下の連絡先へ！

梅田版画工房  
代表：梅田明雄（うめだあきお）  
長野県千曲市上山田671-2  
Tel:026-276-1316  
Fax:026-276-1319  
litho@u55.jp

## シテ・デザール入居者募集について



シテ・インターナショナル・デザールの建物 ©Diane Arques



パリ4区に位置し、すぐ横をセーヌ川が流れる。

シテ・インターナショナル・デザール（Cité Internationale des Arts）は、1965年設立されました。フランスでアートを学びたい人を広く受け入れ、レジデンス可能な（アトリエ付宿泊施設）フランス最大の国際芸術都市です。名古屋芸大グループでは、このレジデンスルームをいくつかレンタルしており、学内だけでなく、大学関係者、卒業生の皆様に広く活用していただけるよう順次貸し出しを行っています。

今回は名古屋芸大グループの1つ「名古屋音楽学校」で管理分についての利用案内になります。

—名古屋音楽学校では、パリの「シテ・デザール」に4室のお部屋を所有しております。「シテ・デザール」は、フランス政府とパリ市が芸術を学ぶ人のために運営するパリ市内の抜群のロケーションに位置する財団法人国際芸術学生寮です。この度、2018年11月から2019年8月末まで、Bタイプのお部屋に空きがでましたので、名古屋芸術大学の同窓生の皆様をはじめとして名古屋芸大グループ関係の方々にご利用していただくことが可能になりました。

入居者の募集内容は次のとおりです。

+++++  
►お部屋=Bタイプ: 約23m<sup>2</sup>（トイレ、台所、シャワー付き）  
►1ヶ月の家賃=126,000円（アップライトピアノが設置されています）  
►入居期間=2ヶ月以上～最終2019年8月末まで※全室ご夫婦等2名での入居も可

○家賃は原則として前月末までに次月以降のご利用月分を前納。（ご相談可）

○預り金として、家賃3ヶ月分をお支払いたいだけ、契約終了後に返却いたします。  
○ご入居者様の都合による中途退室はできません。

ヨーロッパだけに限らず、様々な国からのアーティストが常に滞在しています。様々なコミュニケーションが生まれ、さらなる創作意欲を刺激されることでしょう。興味をお持ちの方は、どうぞお問い合わせください。

○家賃に含まれるもの=管理費／室内備品のピアノ使用料／シングルベッド1台の使用料／2週に一回のベッドシーツの交換代金／電気代／水道代／施設内線電話使用料／施設内洗濯機利用料  
○美術の部屋ほど広くないですが、汚さなければ、制作活動は可能です。

▶その他

○来年度(2019.8以降)の利用申し込みの順番確保のための予約待機は可能です。  
○特典(音楽関係)  
シテ・デザール内コンサートホール年1回無料使用でき演奏会ができます。/施設内リハーサル室優先的使用(有料)

+++++  
+++++  
►さらに詳しい内容についてのお問い合わせ及びお申し込み先は、名古屋音楽学校まで  
〒460-0004  
名古屋市中区新栄町2-9 スカイオアシス栄  
TEL 052-973-3456  
FAX 052-973-3330  
担当 竹岡 eMail=t.takeoka@nsmusic.jp

シテの公式ホームページもご覧ください  
(仮・英表記のみ)

<https://www.citedesartsparis.net/>

## 個人美術館を設立

# 内平俊浩さん9期卒

## 美術学部彫刻科

— 学生時代を振り返ってみていかがでしょう。  
作品はやはり木彫でしたか？

学生時代は塑像中心でした。裸婦像が殆どで今の作品の軸となっています。アパートに帰っても粘土で小さい物を制作していました。その他は麻雀やパチンコをしたり、彫刻科の仲間でバンドを組んでドラムを叩いたりと楽しい思い出があります。最初の卒展買い上げになったのも嬉しいことでした。当時の先生方には今でも感謝しております。

— 現代の女性を等身大で表現した「woman21」シリーズ、その顔の表情に、ある種仮像のような、だけど現実の少女のように見えるのが印象的でした。

それぞれ雑誌であったり実在の人物であったり、すべて参考人物があります。所詮同じ技法で同じ作家が彫るわけですからよく似てはいますが、の中でも自分にとっては意味があります。仮像も好きで、自分流の仮像を作りたいという気持ちもありました。それがシリーズ作品に繋がっていると思います。



『WOMAN21』2015年、ギャラリーなつか



館内展示風景

— 5月にパリで開催された展覧会についてお聞かせください。

く絵の指導もしました。年に数回の帰省の時には、美術の事や名芸大の話をします。また内平美術館にも関わっており、非常に心強く思っています。美術館の掃除、展示などもよく手伝ってくれます。

— 生まれ故郷に設立された内平美術館についてお聞かせください。

内平美術館(石川県鳳珠郡能登町字笛川)は平成5年に設立しました。私の作品と当時の知り合いの作家15名の方に小品を貸して頂き、招待作家として同時に展示しました。作家は造り続けることが使命なわけで、どんどん作品は増えています。それを保管する場所を確保するのも作家の仕事です。敷地75坪、建物11m×11m天高5m木造ワンフロアの小さな個人美術館ですが、私の作品が展覧会で少なくなったタイミングで開催した2回の企画展示等、地域文化の活性化を目指しております。実家がそばですので観覧したい方は電話で予約してもらう形式で、兄が館長として管理をしております。

— 姪御さんも名芸(絵画科版画コース)ですね。

姪の早紀はまだ小さい時から私の作品を見て育っており、多少なりとも私の影響があります。よ

### ☆ご注意ください☆

昨年6月より個人情報保護法が改訂され、個人情報の管理の際、同窓会のような小規模の団体にも法律に則った運営が求められることとなりました。

今までメールやお電話でご本人様の情報を確認できた場合は変更受付しておりましたが、今後は規定の申請書(郵送orFAX)での受付のみとなり、またご本人確認書類(運転免許証等のコピー)の添付が必須となります。

## 住所変更について 個人情報改正に伴う名簿情報変更手続き改訂のお知らせ

同窓会ホームページ[<https://nuaadaa.com/address-change/>]をご覧になり、以下の手順で申請手続きをお願いします。

- 個人情報保護方針について以下ページをご一読ください。  
» 個人情報保護方針 » 個人情報の取り扱いについて
- 住所変更手続き方法について以下ページをご一読ください。  
» 「個人情報に関する開示・訂正・削除等の求め」に応じる手続き等に関して
- 書類のダウンロード  
「個人情報開示等申請書(WORD／PDF)」をダウンロード後、所定の事項を全てご記入の上、下記宛にご送付ください。

### 送付先(お問い合わせ)

一般社団法人 名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65 TEL/FAX:0568-25-4190

— 現在は会社の代表もされているんですね。

(株)森田環境企画という、沖縄から北海道まで、全国の博物館又は資料館の模型、レプリカ、ジオラマ、遺跡の保存工事等設計、施工を手がける会社です。私の作品は粗彫りの木彫ですが、この仕事となると、きちりした精度が求められ、作品というよりは「製品」となります。

— 今後の予定などを教えてください。

これからもWOMAN21シリーズは作り続けたいですね。ここまで来ると止めるわけにはいかず自分の成長のためと思います。今後はモダンアートエナジー社から作品のレンタル、ネット販売が始まる予定です。また10月にギャラリーなつか(東京)にて個展、来年2月にNAU展奨励賞を受けてのブース個展(国立新美術館/六本木)を予定しています。



うちひらとしひろ  
1960年石川県生まれ

1979 「中日展」名古屋市博物館  
1987 個展 画廊春秋(銀座)  
ギャラリーなつか、ギャラリーK(銀座)で毎年発表  
1988 ハンズ大賞展審査員特別賞  
1990 「20人の彫刻展」新宿MY CITY(新宿)  
1993 内平美術館設立(能登町)  
1997 「手からの思考展」埼玉県立近代美術館  
1998 「作家選抜美術展」石川県立美術館  
2006 「石川の木彫」石川県立美術館  
2009 「内平俊浩木彫展」横浜人形の家  
2018 NAU展 奨励賞 国立新美術館  
2018 「NAUパリ展」ギャラリーメタノイア(パリ、フランス)

現在、博物館展示物などの立体造形、オブジェ等の制作会社「(株)森田環境企画」の代表として活動する傍ら、精力的に制作を続けている。  
(会社ホームページ <http://moritakankyo.co.jp/>)

## テラッセ納屋橋に 「名古屋芸術大学 地域交流センター」が開設。 Gallery BOXがオープンしました！

2017年9月にテラッセ納屋橋3Fに開設された名古屋芸術大学地域交流センターでは、名古屋芸術大学発信!アート体験型スペースとして「ブロックアート」※の教室を開催しています。(※「ブロックアート」は名古屋芸術大学の登録商標です。)

また6月より関連事業として、通路側ショーウィンドウに「名古屋芸術大学 Gallery BOX」をオープンいたしました。この場所は、名古屋芸術大学関係者を対象とした作家の作品展示とそれにともなうアートマネジメントの実践、芸術の啓蒙活動を目的とした展示スペースとして活用していくこととなります。

施設の管理・運営は名古屋芸術大学地

域交流センター、展覧会の企画・運営は名古屋芸術大学アート&デザインセンターでは、名古屋芸術大学発信!アート体験型スペースとして「ブロックアート」※の教室を開催しています。(※「ブロックアート」は名古屋芸術大学の登録商標です。)

また6月より関連事業として、通路側ショーウィンドウに「名古屋芸術大学 Gallery BOX」をオープンいたしました。この場所は、名古屋芸術大学関係者を対象とした作家の作品展示とそれにともなうアートマネジメントの実践、芸術の啓蒙活動を目的とした展示スペースとして活用していくこととなります。



泉菜穂さんの作品、知多木綿キッチンクロス

また次回は、テキスタイルデザイナー36期卒の泉菜穂さんの展示「水端(みずはな)」を開催します。(期間=10/13土～12/24月)

知多木綿を使い、有松絞りの技法を用いたクロスやストールなど、毎日の暮らしに彩りを添える作品を紹介します。

お近くにお越しの際やお出かけの際、お気軽に足を運んでみてください。



上下の写真は [https://www.instagram.com/nua\\_cre/](https://www.instagram.com/nua_cre/) でもご覧になれます。



### 名古屋芸術大学 地域交流センター

名古屋市中区栄1丁目2-49 テラッセ納屋橋内 3階  
TEL:052-684-9990

定休日:木曜日 ホームページ:[nua-cre.com](http://nua-cre.com)

### Gallery BOX

テラッセ納屋橋2F通路[ショーウィンドウのため会期中は無休、観覧料無料でいつでもご覧いただけます。]